

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|--------------|-----|----------------|
| ○事業所名 | デイグループ ぱーく | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2026年 1月 13日 | | ～ 2026年 2月 20日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 22人 | (回答者数) 13人 |
| ○従業者評価実施期間 | 2026年 1月 22日 | | ～ 2026年 1月 22日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 9人 | (回答者数) 9人 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026年 3月 24日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|--|--|
| 1 | 2024年4月1日より、二つの事業所を一つにしたことで、小学生から高校生までが、同じ場所で活動を行うことができ、お互いに、面倒を見たり見られたりと、学年を超えた縦のつながりができ、子供たちの遊びも広がった。 | 毎日、業務開始前に、ミーティングを行い、送迎確認、利用者の前回の振り返り、利用者の共有事項など、繰り返し確認している。特に支援が必要な利用者は、時間をかけて話し合い、具体的な支援方法を探ってみる。 | 毎月のスタッフミーティングで、時間をかけ、利用者の具体的な支援の方法を検証していく。 放課後連などの研修に参加したり、動画を視聴したりして、より良い支援を考えていく。 |
| 2 | 音楽、身体表現、創作は、音楽療法士、元特別支援学校教師、保育士など専門分野の資格を持ったスタッフのもと、チームワークで、利用者一人一人の気持ちを大切に個性を伸ばし、自分を表現できるよう5領域を意識した支援をしている。 | 「やりたい。」気持ちを尊重し、無理はせず、本人に寄り添った支援を心がけている。 できることは、役割を与え自分に自信を持たせている。 | 療育活動の振り返りを行い、スタッフからの感想や意見を取り入れて、次回につなげていく。 |
| 3 | テレビやゲームなどと違って、ボードゲームやカードゲームなどで遊ぶことにより、自発性、考察力などの力を養うことができる。 | ごっこ遊びなど、スタッフも一緒になって楽しみ、強制はせず、困ったときには助言をしたりして遊びを膨らましている。 | 時には、他の利用者も関わり、一緒に遊べる工夫を考える。 |

| | 事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|---|--|
| 1 | スタッフミーティングになかなか、全員出席するのは難しく、共有事項の連絡は、細かく伝えてはいるが把握しきれていない所もある。 | ダブルワークをしていたり、収入制限があったりと、ミーティングの出席率が低い。 | ミーティング候補日をいくつかあげ、スタッフの参加できる人数が多い日を選んで、日を決めている。 不参加のスタッフには、議事録を配布し説明をしている。 |
| 2 | 保護者会の出席率が少なく、日程の設定や議題の内容の検討、工夫が必要だと思う。 | 働いている保護者も多く、時間的に余裕がない方も多い。 | 卒業生の保護者の体験談や将来に向けての参考になる講演をして頂くことなど、参加してメリットになるような内容を考えていきたい。 |
| 3 | 長期休みの際の、朝からの預かりニーズがある時の支援に入るスタッフの不足。 | 限られたスタッフの中でも、ダブルワークをしているスタッフが多いため、支援に入れるスタッフが制限されてしまい、常勤が対応せざるを得ないことがあり、事務時間も削られてしまう。 | 利用者との関係ができていないスタッフもいるので、まずは、関係ができるように努め、支援ができる人数を増やしていけるようにする。 |